

第十二回 幼児教育実際指導研究会協議会

(お茶の水女子大学附属幼稚園)



△ 討 議 ▽

◇ 昨日・今日の実際保育中には十分に片づけをしないで他の遊びへ移ったりする子どももみうけられました。こういうのは、しつけの点で悪くはないでしょうか。

坂元 本来は最後までやるのが普通ですが、ご存じのように研究会のスケジュールに追われていますので今日は特別です。ただ思うのには、今すぐできるようにするよりも、しばらくしてある時期になったとき十分にできるようにする、ということでは

いと思います。人間として望ましいことも、今すぐそれができ上らねばならぬというものでもないでしょう。ことに、三才位るときはそういう考え方が正しいのではないのでしょうか。

子どもがへんな返事をしたとき「いい返事ができましたね」と言ったらどうでしょう。とにかく声を出して言ってくれさえすればよい、自然にできるようになってくればよい、と思っています。

◇ 「お」をつけることばが多いということ……お廊下・お積木……について。

坂元 これは微妙なものです。私などは、「女のお嬢さん」というので、ハツと思うのですが……。「お」は一種の東京山の手のことばです。お母さんたちがそうだからというばかりでなく、一連の生活様式の中

から

で育まれ使われているのでして、特有のアクセント、特有のことばがあるのは当然です。ですから、東京のそういう人に、「使うな」とは言えません。幼児の場合はある程度、方言を認めていいのではないのでしょうか。ただ、いかに東京ことばでも「お」をあまり使いすぎると下品になる。地方の人々がへんな気になるのもむりないです。気をつけていても方言のようなものがとび出すので、大めにみてほしいところです。

◇ (1) 幼稚園で遊びの中での仲間つくりをする場合、人間関係をどう扱うか。(2) 幼児の心理判断を行なう方法について。

津守 (2) について。占い師でないから正確な判断はむずかしい。そこでできるだけ科学的判断をしていく努力をすることが大切でしょう。科学的というのは子どものあり

のままの姿をよくみつめて、と言いかえて
かまわないと思います。

もう一つは、保育の中ですすめるのです
から何となくやっているのでは適格な判断
はむずかしい。そこで、参加しながらしか
も科学的にやる方法をみつめていくのがよ
いと思います。分析しなければ、と思うか
もしれませんが、推理力がどうの、言語が
どうの、といった分析だけが科学的方法で
はないのでありますから。

この観点から、(1)の友だち関係の動きを
つかまえる方法を発見できるように。ソ
シオメトリーという方法を使って人間関係
の地図をつくることもできます。誰と誰が
仲が悪いというのは、保育の中で、かなり
わかるはずであります。それがわかるため
には自由遊びの場面などは最適でしょう。

◇ 「クラスの中には孤独な子どもがい
る。そういう子どもには孤独を楽しませて
おいてもよいでしょうか。これは家庭教育
の方法であり、幼稚園では集団に入れるべ
きではないでしょうか」

「今日の実際保育のときに、男の子でた
だ一人だけ、楽しいあそびの中に加わらな

い子がいました。ああいう姿でもいい、と
思うのです——が。

私の幼稚園でも二、三学期になると、そ
ういう子どもが一人ふたり出てきます。こ
れは幼稚園の中のことを知りつくした子ど
もがそうなっていて、だからそれでよいの
か……或いは、やはり皆と一しょに遊ぶよ
うにさせる方がよいのか……と迷います。

守永 今日保育の場合にはいろいろなこ
とが重なっていると思います。一つは性格
の問題です。おはなしにのぼった子ども
は、三才から入園していますが集団に入り
にくい。一人でやることは慎重で熱心であ
り、くせの強いタイプです。そして自信を
もってくると他の人におしつけるので、友
だちから嫌われてしまったりします。この
組にもう一人、社会性の面で幼くて集団に
入れない子どもがおり、この子と仲良しに
なりました。また第二に今日は教師のミス
もありました。というのは、彼の係りを他
の子どもがやっていたのですが、その子が
あまり喜んでしていましたので、つい変え
られませんでした。

こんなことが重なってしまいましたけれ

ど、ふだんはあの子どもなりに成長してお
ります。昨年の運動会するときには組にな
れないで残ってしまったりしましたが、近
頃の彼の生活には友だちと協同して製作を
するということができています。

〔「幼児の教育」六月号参照〕

勝部 幼稚園に来るのは集団生活に入り
くるのですから、集団生活への参加が中心
になるのはおっしゃる通りです。しかし、
集団（仲間）に迷惑をかけるというのなら
問題ですが、砂場でこつこつ、黙々と遊ん
でいるのを、孤立しているからというわけ
で無理に仲間の中にひっぱりこむ必要はな
く、それはそれでいいのではないでしょ
うか。われわれには親心があつて、無理にみ
んなの中にひきずりこむのですけれど、集
団のワクの中で他人に迷惑をかけない場合
には、許容的寛容的にながしい目でみるのが
自然ではないかと思ひます。

それから、幼稚園では集団に入れること
が重視されますけれど、一人でいるときに
はそんなことはないのに、集団に入ること
によってむしろ悪いことを覚えることだっ
てあるのですから、そういう場合、むしろ

一人ひとりにした方が自分のベースですすみ、よいこともある、これは私の思いつきですが。さて現代の特徴として、次の三つのことがあげられています。即ち

(1)現代は衝動的で動物的になった。(2)機械的なものにまきこまれ、機械の部品のようになりやすいこと。(3)集団化の方向。

この三つから、幼児を守ろうじやないかと思つたので申し上げた次第です。

坂元 幼稚園で子どもが集団に入つてこないという事実。一斉保育の場合、40〜50人の中に入つてこないという意味ならばたいしたことはない。がそうではなくて、別々に一人で自由に遊んでいるとき、他人のじやまをしていないならば、集団の中に入つている、というのではないですか。勝部先生の言うのは、バラバラに遊んでいる中にも入らないで一人理想境の中にいる場合です。ですから結論としては、一人で遊んでいることが悪いのではなくて、遊びの種類によつては、皆と一しょになつたりならなかつたり、協力したり一人だけでやつたり、というのでよいということになりましよう。この点、幼稚園・保育所では機会に

恵まれているから好都合と思います。

◇一斉保育を行なっている場合の自由遊びの考え方について。

坂元 一斉保育を行なっている場合——という形容はいらないと思います。どういふつもりでつけたかわかりません……。

邪推すると、幼児の教育は一斉が主だがしかし自由な遊びの時間がある、——とするとこの見方には賛成できません。保育には一斉も少し入り、自由な活動もある。自然に皆と一しょに同じような活動をする場合も多いことであり、活動の性格や種類により自からやり方が違ふでしょう。時間をきめて一斉にやるのも一つの方法ですが、これは便宜上であり、それぞれの活動に応じてやるという方が本質的なものであります。教師が計画をつよくもっている場合でも、融通がつく形でもっている方がうまくいくと思います。小学校の校長さんの中では、幼稚園は一斉保育をやるものだと思つている方が多いですが（これは校長さんばかりではありませんけれど。）私たちは、子どもの生活を充実させるためにも個性をのびのびと生かすためにも必要な二重の意

味を満足させるよう、保育をすすめるべきだと思つています。

津守 いまの二、三のことに関連して感じたことを申しましよう。

子どもが違ったことをする、ということに對して保育者はがまんする力をもつていなければならぬと思います。どうも先生は、組の子ども全部が同じレベルにならないければいけないと思つてしまふ。しかし、どんなにがんばってもそこまで到達しない子がいるし、がんばらないでもらくに到達する子どももいるのですから、寛容の心でうけ入れるしんの強さが必要ではないでしょうか。幼い子どもを扱う保育者には、とくに必要なことでしよう。

入りたいけれど入れない子には何か手をうたねばならないのですが、子どもはそれぞれ違うんだということを忘れたくないものだと思ひます。

★ ★ ★